

## バウムテストの臨床的診断に関する研究

伊東 真里

### A study on The Clinical Diagnosis of The Tree Test

Mari ITO

#### Abstract

The tree test has been widely used in medical facilities, educational institutions, and psychological institutions, recently.

The author conducted clients to draw the tree test and analyzed changes of the tree test for symptoms.

As a result, it was shown that a client was able to send a message for a therapist when the tree test was used in psychotherapy.

**Key words** : The Tree Test, Medical Facilities, Educational Institutions, Psychological Institutions, Psychotherapy

キーワード：バウムテスト、医療機関、教育機関 心理機関、心理療法

#### はじめに

最近、医療・教育・心理機関における臨床現場でよく使用されている心理検査にロールシャッハテストやバウムテストがある<sup>1)</sup>。知覚すなわち印象と理解を通じて診断するロールシャッハテストに対し、運動を媒介とする手段すなわち表現と表示を媒介とし、さらに行動の軌跡として残すことのできる方法として、バウムテストが臨床場面でよく活用されるようになってきた<sup>2)</sup>。

バウムテストとは投影法の一つに分類されている性格検査である。1949年にスイスのコッホがドイツ語で「バウムテストー精神診断学的補助手段としての樹木画テストー」として公刊し、1952年には、そ

の英訳版の訳書<sup>3)</sup>が出版され、バウムテストが実施されるようになった。

実施方法は、被検者にA4版の白い画用紙と柔らかい鉛筆(4B)、消しゴムを与えて「実のなる木を描いて下さい」と教示する。描いた木が非常に不自然だったり、十分にできあがっていなかったり、あるいは、もっと他の点や他の層について検討したいときは必要に応じて2回以上テストを繰り返すように指示する。そのときは「前に描いたのとはちがった実のなる木をもう一度描いて下さい」と教示する。このように実施方法は非常に簡単であるが、バウムテストの解釈は大変難しく、そのテストを分析し適切な人格特性や診断を引き出すためには、か

なり多くの臨床経験が必要になる。

コッホはバウムテスト解釈の3側面として次の3つを挙げている<sup>3)</sup>。

①空間象徴：樹木の紙面における配置の意味を読みとること。紙面のどの位置にどのような方向付けをもって描かれたかによって、その人物の生活空間における自らの位置付けおよび対人関係の場におけるその人物のあり方を推測することが可能である。

②形態分析：描かれた樹木の形を分析すること。描かれた樹木の形を年齢段階に従って分析していくと、発達とともに形態が変化していく。

③動態分析：鉛筆の動きを観察すること。同じ形態の樹木でも、描く人物の性格によって鉛筆の動きが異なり、その相違からその人物の性格を読みとることができる。

実際にバウムテストを解釈するときには、これら3つの側面からの観察が同時に行われ、総合的に評価されている。この3つの側面について具体的に事例を通して説明し、バウムテストの心理療法の中での臨床的応用について考察することを目的とする。

### 1. 樹木の紙面における配置の意味について

バウムテストの解釈の一助としてグリェンワルドの空間図式(図1参照)を取り入れている。多くの人の平均的傾向をみると、左下から右上へ向かう対角線上に過去、現在、未来をあらわす点がある。そして、左下は原初、起源の領域で幼児期への退行を示し、右上は目的、終末、結果をあらわし能動性の領域で生への対決を示す。右下は拒否、取り消しの領域で敗北感を示す。左上は回避、受動性の領域で生への傍観を示す。また、交叉点から左へ向かう領域は自我と過去との関係を示す領域で内向性をあらわす。逆に、右へ向かう領域は自我と未来との関係を示す領域で外向性をあらわす。

たとえば、図2は神経症的な傾向を示す不登校の中学校2年生の女子の描いた木である。空間的な位置からみれば、右下の領域に描かれている。右下は拒否、取り消しの領域であり、敗北感を示している。つまり、自分は何をしてもだめであるというような自己否定の気持と、学校においても学習的にも体力的にも友達に劣るという敗北感の中に自己を定位させていると考えられる。また、これとは別に不登校の子供で左上の領域に木を描く子供もいる。左上は回避、受動性の領域で生への傍観を示してい

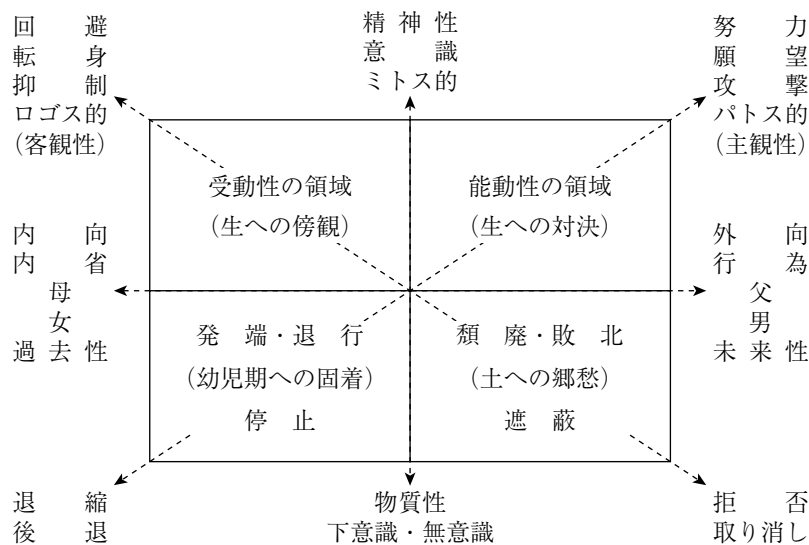


図1 空間図式

る。つまり、このような子供は学校における自分の座を失って、傍観者の立場、回避の空間へ自己を定位させていると考えられる。図3は18歳の女子が描いた木である。これは木の左側の部分だけが表現されている。空間図式が示すように左側は自我と過去との関係を示す領域で内向性をあらわす。つまり、外界に関心を示さず、対人接触を避け、過去に固着している状態と考えられる。

このように、バウムテストにおいて描かれた樹木が紙面のどの領域に定位させられているかにより、被検者の生活の場におけるあり方が空間図式により解釈され意味付けられている。

## 2. 描かれた樹木の形の分析について

特徴的な樹木の形を取り上げ、心理的な意味付けについて考えてみることにする。

図4は神経症的な成人女性が描いた木である。木



図3 対人恐怖症状

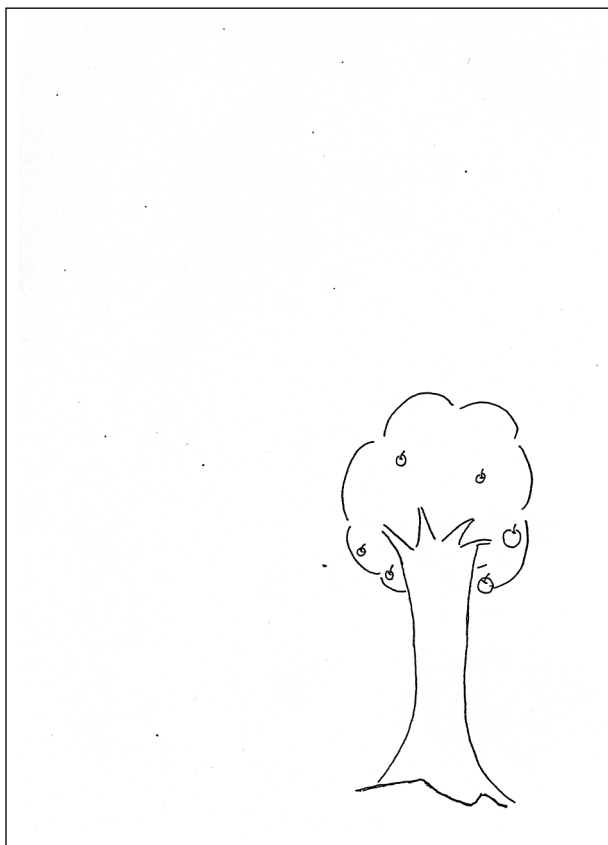


図2 不登校傾向

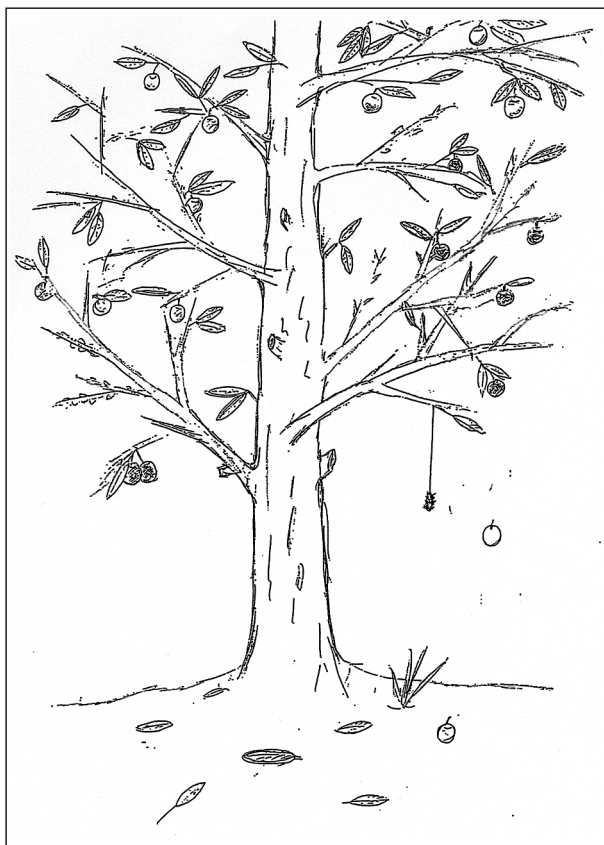


図4 神経症的傾向

が紙面からはみ出している。これは感情のコントロールができていく性格傾向であることを示している。幹の表面にある切り取られた前方の枝は抑制傾向を示し、自分の欲求を抑制した衝動が心の中に潜在していることが分かる。右側についている切り株は心的外傷体験を示すと考えられる。これは、これまでの生活経験の中で心理的に非常にショックを受けることがあったことを示し、切り株が幹の下の方にあればあるほど年齢の低い段階でそのような体験があったと考えられる。落ちる葉は解かれること分かれることを意味する特徴であり、自分の感情をすぐに発散させ、自己を簡単に表現する傾向があると考えられる。落ちる実は失われること、喪失することを意味する特徴と考えられ、これまでの生活経験の中で犠牲にしたことや諦めたことがあるということを示している。

図5は学校でも全く友達もできず、孤立している

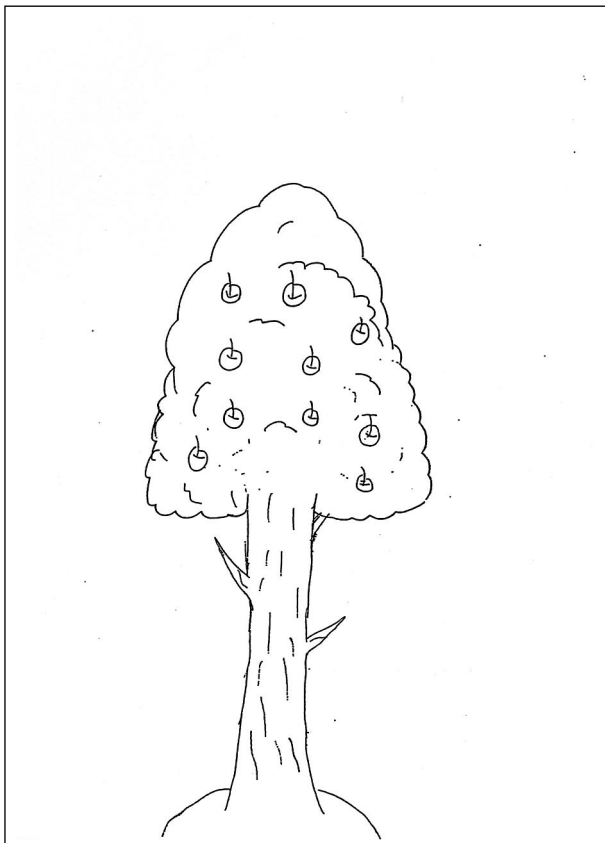


図5 孤立傾向

中学校1年生の男子の描いた木である。円形の地平線は孤独感を表し、自分は一人ぼっちであるという感情が強いことを示している。冠部の下の幹の低いところから出た枝は部分的な発達抑制を示しており、退行所見が認められる。樹冠の中に枝が全く描かれていないのは対人関係の悪さを示している。

図6は心身症状をとまなう成人女性の描いた木である。地平線が傾斜しており心理的な安定性を失い、足場が不安定な状態を示している。すぐに人に不信感を抱きやすく適応性のない傾向を示している。

図7は14歳の情緒障害の男子の描いた木である。枝が交叉しており情動と自己統制との間に葛藤状態があることを示している。つまり、自分自身の心の中に自己に矛盾する両価的な感情があり、その2つの感情の中で葛藤状態に陥っていることを示している。

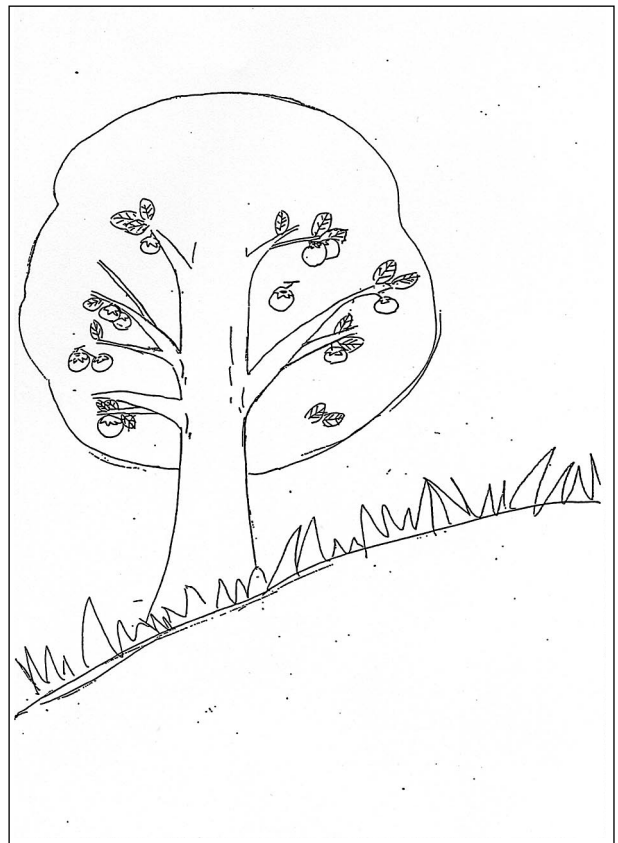


図6 心身症的傾向

### 3. 運筆の観察による分析について

運筆の観察による分析はその形態水準の程度によって解釈が異なってくる。たとえば、運筆が規則的であるか不規則であるか、均衡がとれているか不均衡であるか、速いか遅いか、渴筆か潤筆か、広い狭いか、豊かか貧しいか、飾りたてているかおざなりであるかなども形態水準の高低によって二義性が生ずる。そのため、表1のような解釈仮説適用の表を参考にして運筆の観察による分析を行っている。

### 4. 症状経過にともなう樹木の形態の変化について

〈症例1〉 中学校3年生（女子） 心身症状をとまなう不登校

（初診時の症状）

小学校6年生の頃から腹痛があり、朝学校に行く頃になるといつも腹痛が起こっていた。また、血圧

が低いと朝学校に行く時間になってもなかなか起きれないという状態であった。家庭環境においても父親が長期入院をしているため、母親がその付き添いで1日おきに病院に泊まらなければならない、本児は一人っ子のため夜1人で家にいなければならないという状況であった。

（バウムテスト所見）

図8は初診時に実施したバウムテストである。木全体が左へ傾斜しており、根が地平線の下に隠れてしまっている。これは心理的な不安定さと防衛的態度の強さを示している。また、幹の表面にある線は感受性の強さを表している。

図9は3ヶ月程経過してから描いた木である。この頃になると心身症状もほとんどなくなり、心を打ち解けて話し合えるような友達（ボーイフレンド）ができ、その友達と同じ高校に入りたいと頑張って学校に通い始めた時期である。また、父親の



図7 情緒障害

表1 運筆による解釈仮説

形態水準		+	-
不規則性	感情の有意	感情生動性	意志の弱さ
規則性	意思の有意	意志の強さ	感情の冷たさ
均衡	低い興奮性	平静化	無感応
不均衡	高い興奮性	感受性	易刺激性
形態水準		+	-
急	活動欲・感情生動性	不 穩・感情興奮性	
遅	静 穩・平 静 化	不活発・冷 淡	
弱	敏 捷・繊細さ	意志薄弱・不安定性	
強	意志力・抵抗感	鈍 重・短 気	
潤（側）	生のよろこび・直観性	放 縦・粗 野	
渴（直）	自己統制力・精神性	禁欲的・概念性	
広	熱中・想像力	奔放・無 批 判	
狭	克己・理論性	臆病・無味乾燥	
連	論理性・組織的思考	思想貧困・移 り 気	
綿	思想豊富・直観能力	飛躍性・抽象力欠乏	
離			
豊	形式感情・外観重視	誇 張・非即事性	
貧	合目的意識・即事性	外観軽視・形式感情乏	
飾りたて		喝采願望・自画自賛	
おざなり		非厳密性・狡 猾	

退院の日も決まり表情も明るくなってきた頃である。

図8と比較すれば、樹冠の大きさも幹の太さも広がりを見せ大きくなっている。これは自分の生活空間が広がり自我が強くなってきたことを示している。また、左への傾斜もなくなり根もつけられ心理的な安定感がでてきたことがうかがわれる。樹冠の中に実のほかに花もつけられ、ボーイフレンドができたために外観を気にし自分を飾ることに関心がでてきていることもわかる。

〈症例2〉19歳（女性） 不安神経症  
（生育歴）

本人は第2子として出生し胎生期、周産期、乳児期において特記すべき異常はなかった。幼稚園から小学校の時期にかけて友達との関わりも少なく、いつも似たような性格の友達2～3人と遊んでいた。

家庭では勉強のことで父親に叱られることがたびたびあった。中学校の時、先生に叱られクラスの友達の前で恥をかかされる経験をもったことがあった。高校入学後、体育担当の先生から皆の前で叱責を受け翌日から学校を休み始める。それ以後、朝は家を出るが学校へは行かず学校からの連絡で休んでいることがわかる。学校側から休学か退学かを進められ、高校1年の6月に退学する。高校退学前後、本人は父親にたたかれることがたびたびあった。高校退学後、3ヶ月間程家の中に閉じこもっていた。その後、近所のスーパーマーケットの袋詰めの仕事をするが、店の人から「こんな所に働きに出すなんてどんな親なんだ」「専門学校に行けばいいのに」などと言われ、1年間程でやめる。その頃から心身症状を訴えるようになり病院を転々とするが異常なしと言われる。以後、家の中に引きこもりテレビばかり見るようになる。布団は引きっぱなし、窓も

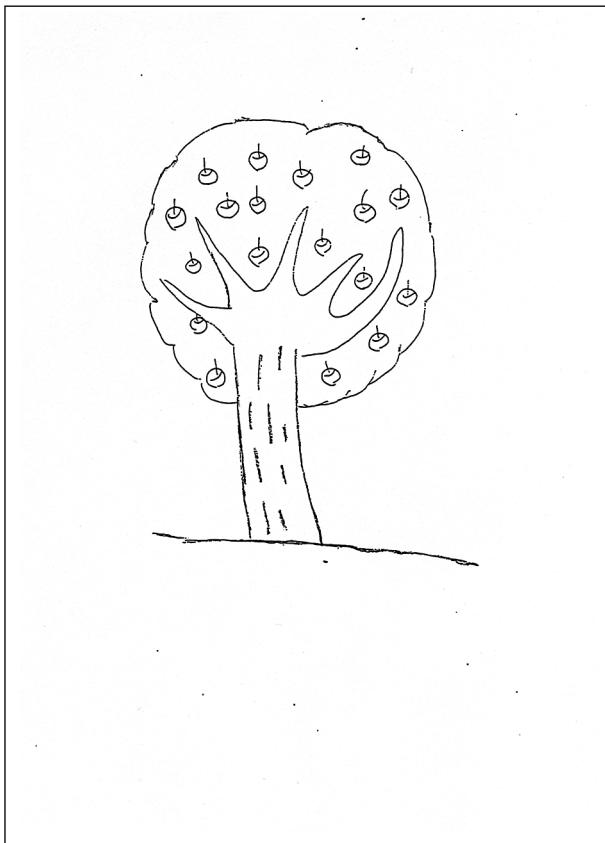


図8 初診時

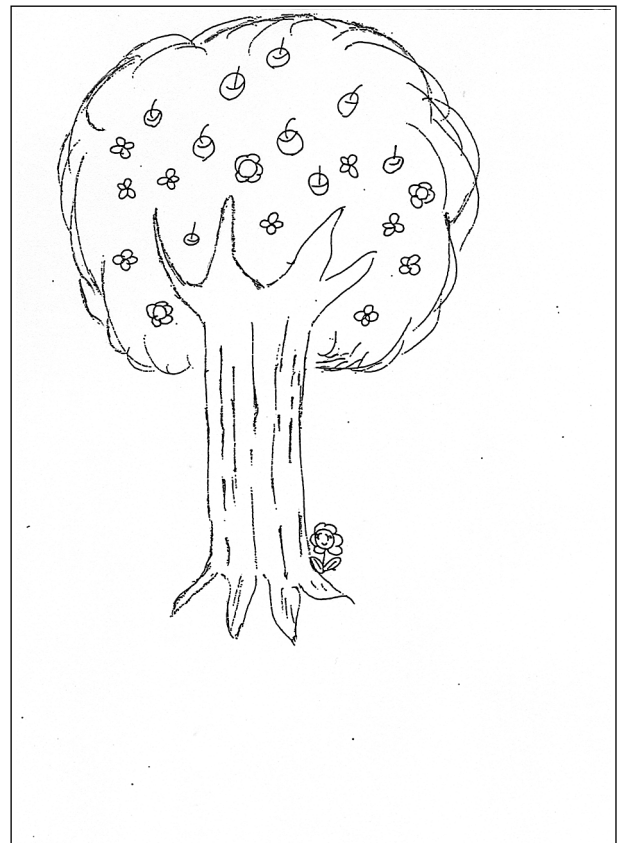


図9 3ヶ月後

カーテンも閉めたままで自分の部屋に誰も入れようとしなかった。母親が仕事をやめてから、ますます母親に引っ付くようになる。姉が寝ている時に布団の上にお湯をかけることが2～3回あった。弟に対しても攻撃性を向けることがあった。

(初診時の症状)

心身症状としては、胸が苦しい、頭痛、肩の痛み、首の痛み、声がつまってでない、視覚異常(物が二重に見える)などを訴えていた。

対人恐怖症状としては、一人で外出できない、母親と一緒に外出しても過緊張になり息苦しくなるなどであった。

家庭での問題行動としては、母親に対する攻撃行動や依存行動、弟に対するこだわり行動などであった。

(バウムテスト所見)

初診時から半年ごとにバウムテストを実施し、症

状経過にともなう樹木の形態の変化について分析した。

図10は初診時に実施したバウムテストである。枝は伸びきっておらず、実は冠部の中にはりついた形であり、社会性の未熟さと対人関係の悪さを示している。幹の下には根っこも地平線もなく木が宙に浮いた状態で描かれており、情緒的な不安定さと自我の弱さを示している。

図11は心理治療を開始して半年後に実施したバウムテストである。前回よりは枝も伸び実も枝からぶら下がった状態で描かれており、人に対する関心も増し外界への自我の働きかけが少しでてきたことを示している。一方、前回と同様幹の下には根っこも地平線もなく依然として情緒的な不安定さが感じられ、不安傾向の強さを表していた。

図12は心理治療を開始して1年後に実施したバウムテストである。幹の下には根っこが描かれ地平線

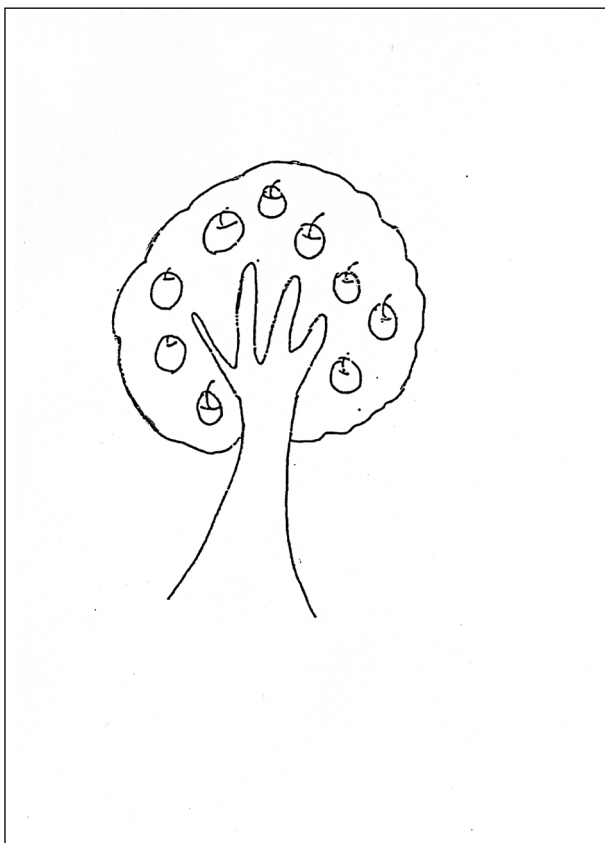


図10 初診時

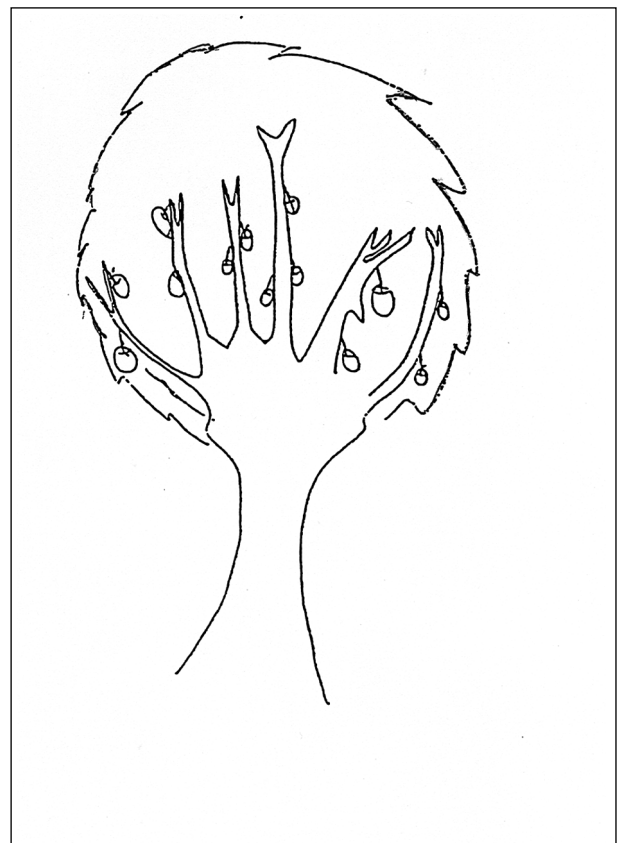


図11 半年後

らしきものも表れ、情緒的な安定感がでてきて自己コントロールが少しずつ可能になってきたことがうかがえた。枝には葉もつけられ人目を気にする傾向もみえ、みせかけを良くしようとする欲求も表れてきた。

図13は心理治療を開始して1年半後に実施したバウムテストである。幹の下方も広がりを見せ、自我も強化され自分を客観的にみただけの心のゆとりも表れてきた。枝には実と葉がバランスよくつけられ、心的エネルギーが高められ行動面における自主性もでてきた。

図14は心理治療を開始して2年後に実施したバウムテストである。この時期になると心身症状も対人恐怖症状もほとんど消え、一時のようにカッとする回数も減少してきた。家庭内では積極的に母親の手伝いをするようになり、母親と一緒にあれば外出もできるようになってきた。父親や弟に対する見方の

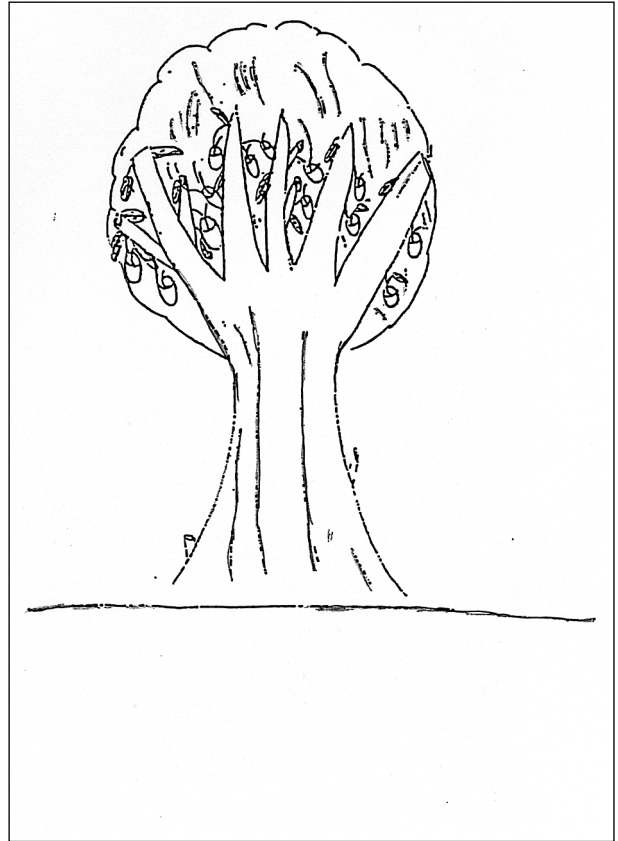


図13 1年半後

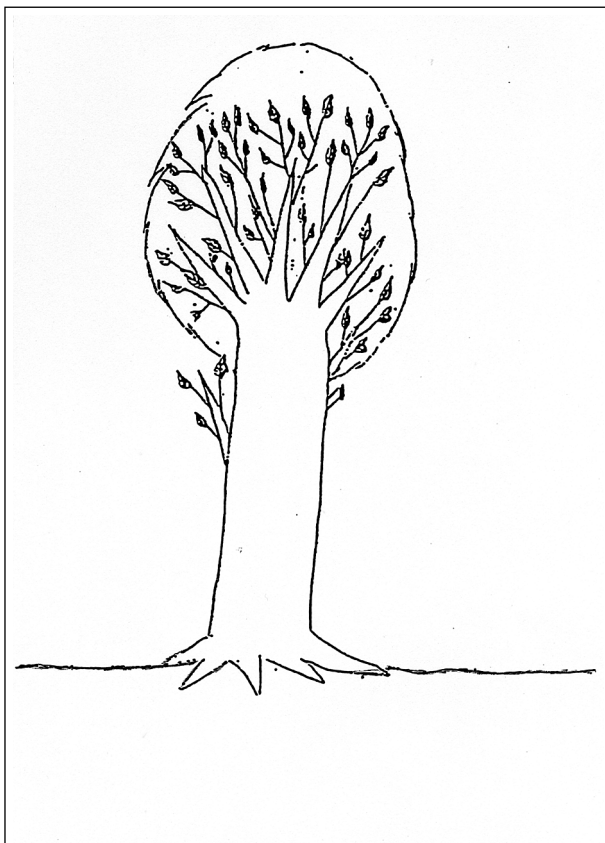


図12 1年後

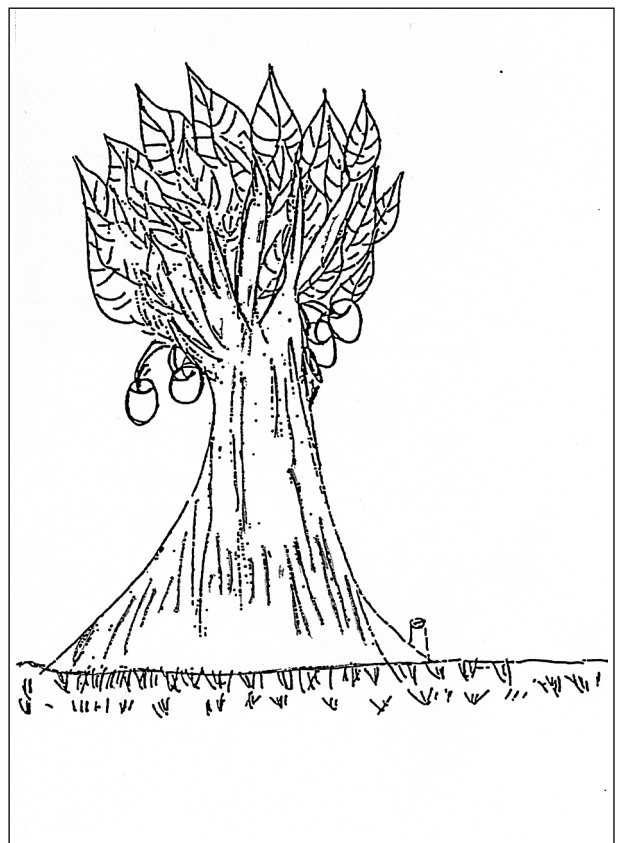


図14 2年後



変容も生じてきて「父も弟も我慢してくれている」などと言い、父親に対して「自分とよく似ている」と父親像を受容していく態度もみられるようになってきた。「自分が変わらなければだめだと思った」と自己洞察から自己概念の再体制化に向けての動きもみられるようになり、周囲の人に対してもペースを合わせられるようになってきた。このような時期に描いたバウムテストであるが、冠部の境界線もなくなり枝が勢いよく外界に突き出している。これは自我のエネルギーが豊かになり外界に対する働きかけに積極性がでてきたことがうかがえる。また、自分の枠組を抜け出し環境に適応していこうとする融通性と協調性がでてきたことも示している。地平線の上にしっかり立っている木は情緒的な安定性を示している。木には大きな実がつけられ目的性がはっきりしてきたことを示している。

このバウムテスト実施後、2週間程してから本人が来室の時にいつも持ってきてくれるノートの中に「先生ありがとうございました」ということばが見い出され、カウンセリングを終結するに至った。

## おわりに

事例を通して述べてきたようにバウムテストが心理療法のなかで実施される場合、それを治療に生かす臨床的な応用が可能である。患者がバウムテストを通して自分の心の深層を表現し、治療者に何らかの治療的ヒントを与えてくれている。治療者は患者がバウムテストを通して自分の心のどの層、どの領域にまで反応しているかをみきわめ、信頼関係を深めることにより、さらに深層レベルの表現に導かねばならない。患者の心の深層から表現されているバウムテストこそ治療者に訴えるサインも明確なものとなる。

角野<sup>5)6)</sup>も「バウムを縦断的にみていくということはバウムと関わる、すなわちその描き手としっかり関わるということであり、それは心理検査がどうこうと言う問題ではなく心理療法そのものである」と言っている。

今後、バウムテストを心理検査としてだけでなく心理療法的な視点から、さらに検討を深めていく必要があると考える。

## 参考文献

- 1) Regula Koch、林勝造、国吉政一、一谷彊（1981）バウムテスト事例解釈法、日本文化科学社：113-168
- 2) 一谷彊、林勝造、国吉政一（1995）バウムテストの基礎的研究、風間書房：81-164
- 3) Charles Koch、林勝造、国吉政一、一谷彊（2001）バウムテスト『樹木画による人格診断法』、日本文化科学社：111-137
- 4) 伊東真里（2001）「描画法」『総説臨床心理学』小林重雄監修、コレール社：94-101
- 5) 山中康裕、皆藤章、角野義宏（2005）バウムの心理臨床、創元社：338-350
- 6) 角野義宏（2004）「イメージを描く方法」（皆藤章編）『臨床心理査定技法2』、誠信書房：181-205
- 7) 田副真美（1994）「バウムテスト」『特集小児精神・心理学的検査の実際』、小児内科 Vol.26 No.6：238-243
- 8) 曾我昌棋（1989）バウムテスト、心理臨床2（3）：258-261
- 9) 中島ナオミ（1988）幼児のバウムテスト、心理測定ジャーナル20(5)：13-18
- 10) 青木健次（1986）バウムテスト、臨床描画研究I：68-86
- 11) Castilla, D. D.（1994）Le Test de L'Arbre.『バウムテスト活用マニュアル 精神症状と問題行動の評価』阿部恵一郎訳（2002）金剛出版：16-26
- 12) 河合弘靖、徳永佳次、宇田康子（1994）矯正施設におけるバウムテストの活用について(1)バウムテストを読む、犯罪心理学研究52(2)：35-49

- 13) 中井久夫 (1970) 精神分裂病者の精神療法における描画の使用 とくに技法の開発によって得られた知見について、芸術療法 2 : 78-89
- 14) 皆藤章 (2004) 臨床心理査定技法 2、誠信書房 : 182-186